

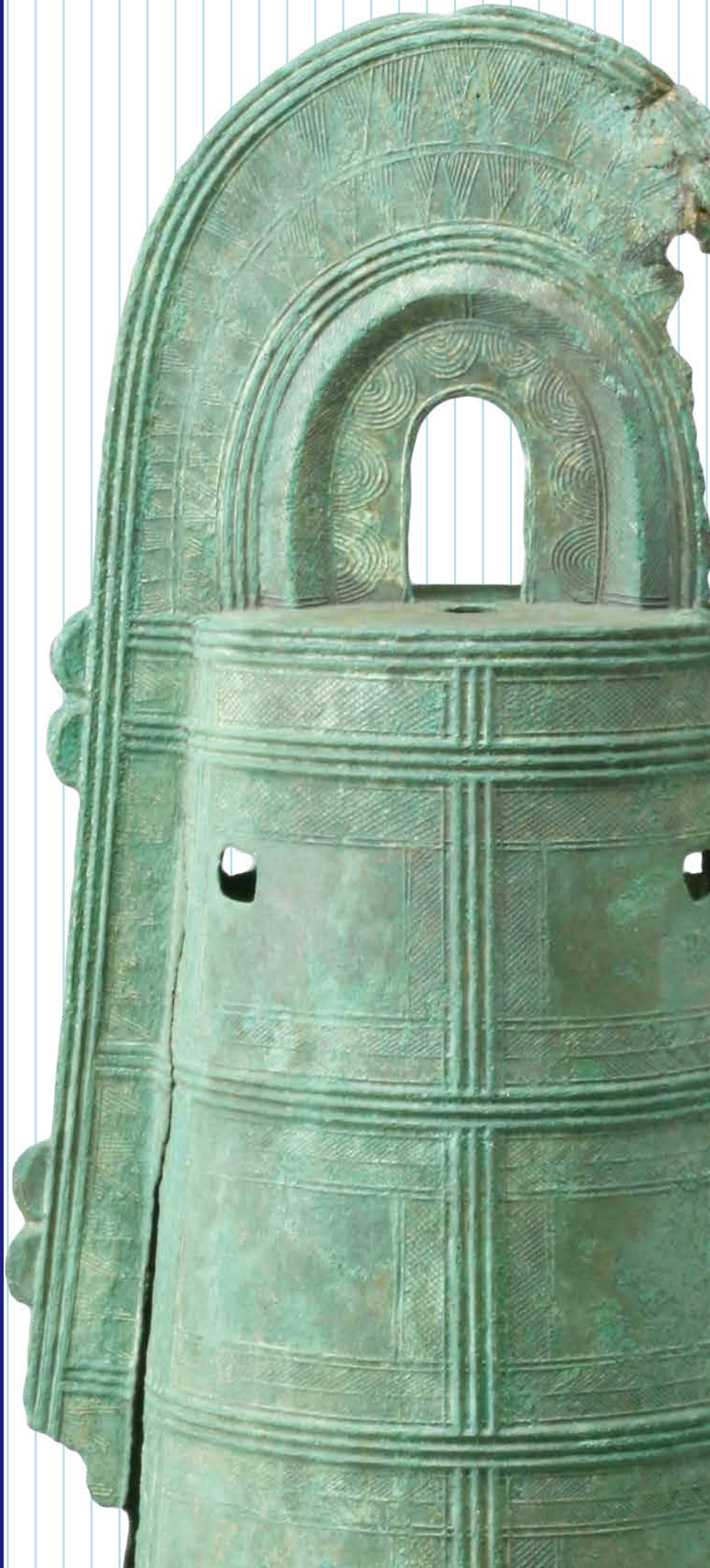
Toyota City Museum
Of
Local History

豊田市 郷土資料館だより

No.100

目次

- 「郷土資料館 50 年」
「郷土資料館だより 100 号」そして未来へ 2
- ◆ 100 号刊行記念付録 3-5
- 重要文化財 織田信長像 修理報告 6・7
- 多様な歴史・文化・自然に囲まれた
豊田市がつくる新しい博物館 8・9
- 「まちの風景」の思い出
豊田市郷土資料館開館 50 周年記念特別展
「ぼくらの“1967” - 50 年前のとよた・日本・世界 -」より 10
- 海を渡り 棒の手披露 行われる 10
- 民具調査だより25 X脚型唐箕 11
- 企画展紹介 古い道具と昔のくらし 大唐箕展 12





「郷土資料館50年」「郷土資料館だより100号」

そして未来へ

豊田市郷土資料館 館長 森 泰通

平成 29 年 (2017)、郷土資料館は開館 50 周年を迎えました。出発点は昭和 38 年 (1963) に行われた豊田大塚古墳の発掘調査で、未盗掘の横穴式石室からは豊富な副葬品が出土しました。当時は優れた遺物が出土すると、地元で保管施設がなければ国が管理する、いわば召し上げられることが常でしたが、豊田市は地元の宝は地元で守り伝えるという意味を示し、昭和 42 年 (1967) の開館に至ったのです。周辺自治体よりもいち早く資料館が設置されたことは特筆すべきことです。装飾須恵器をはじめとする古墳の副葬品は後に重要文化財に指定され、今では須恵器の代表として、高校日本史の教科書に掲載されています。

同時に「豊田市郷土資料館だより」は、今回で 100 号を迎えることになりました。記念すべき第 1 号の発刊は開館 25 年目の平成 4 年 (1992)。この年には増築工事が完了し、新しい資料館としての活動が始まりました。前後する時期には、近隣の安城市・岡崎市などで新しい博物館が建設されましたが、本市では博物館構想などが実を結ぶことはありませんでした。

平成 4 年当時の田端勉館長は、豊田西高校 3 年生の時に豊田大塚古墳の発掘調査に参加し、考古学を志した人です。資料館だより第 1 号は、上司かつ師匠でもあった田端さんの命を受けて、入庁 6 年目だった私が編集しました。今見返すと不慣れな点が多く目につきますが、資料館の新しい歴史が始まることにわくわくしながら作業したことを思い出します。

その後、平成 17 年 (2005) の広域合併を経て、文化財課の担当業務には「新修豊田市史編さん」

「足助の町並み整備」などが加わりました。25 年前に 8 人だった正規職員も現在は 21 人となり、社会の中で歴史や文化財が果たす役割は格段に大きくなりました。そして 100 号に及ぶ資料館だよりは、本市の歴史を豊かにし、魅力や財産を掘り起こしてきたといえます。

さて、25 年前の田端さんは第 1 号に寄せた文章の中で、資料館は週休 2 日制の普及を背景として、余暇時間の活用の中での存在価値が

ますます大きくなることを述べ、「施設が施設として終わるのか、“学習機関”として機能するか」と問題提起しています。これは今まさに、基本計画を策定中の新博物館に求められている大きな命題の 1 つです。博物館へのニーズは時代とともに変化していますが、現在は市民が主体的に関わり、ここから郷土愛が育まれることが強く求められています。資料館においても、平成 20 年度から郷土学習スクールサポート事業、平成 27 年度からとよた歴史マイスター制度を立ち

上げ、「WE LOVE とよた」に資するための活動を続けています。

ところで、博物館の存在意義は何でしょうか。人間が生活する上で、例えば医療や福祉はとても重要ですが、同時に人々が「ここに暮らして良かった」と思える、豊かに充実した日々を送ることは、人生の大切な両輪だと思います。新博物館はその任を果たす拠点となるために、基本理念を「ふるさと力創造・発信拠点」として、「みんなでつくり続ける博物館」を目指しています。次なる 50 年を見据えたビジョンをもち、市民の皆さんの意見をいただきながら内容を考えていきますので、どうぞよろしくお願いいたします。



◆ 100号刊行記念付録

豊田市郷土資料館だより記事索引 (No.1～100)

■ イベント ■

内容	号数
愛知万博に豊田の文化財・郷土芸能も参加	51
海を渡り棒の手披露行われる	100
古城ノロシ上げ結果報告	4
榎原サミットから	42
市政60周年記念事業 民俗芸能大会「農村歌舞伎公演」を終えて	79
始祖松平御参府お帰りの道中 東京から豊田市へ そして未来へ	52
始祖松平御参府お帰りの道中 地域が歴史を創り上げる	53
新豊田市誕生10周年記念事業 第26回全国地芝居サミット in とよた	93
盛況！全国城郭研究者セミナー	6
全国近代化遺産活用連絡協議会 全国大会・フォーラム開催レポート	69
全国近代化遺産活用連絡協議会 全国大会・フォーラム準備レポート	68
体験学習レポート 縄文土器野焼き体験	38
体験学習レポート 夏休み子ども講座	41
豊田の歴史を知らう！ 夏休み子ども週間	37
発見館 とよた「発見」講座(第1回入門編)開催報告	55
文化財巡りツアー「秘仏を訪ねる」 県指定「木造観世音菩薩坐像」公開!	60
平成18年度西三河地方史連絡協議会研究発表大会 開催される	58
平成の「御参府中日記」	6,7
埋蔵文化財展・埋蔵文化財講演会のお知らせ	28
松平親氏600年祭	2～5,7
松平八代歴史サミット開催	44

■ 考古 ■

「ヲチヤガネノ峯」の古墳を追う 一宮内庁所蔵資料調査報告	67
2人の製作者が作った土器 一鳥崎町鳥崎遺跡出土の縄文土器から	89
遺跡紹介 古城遺跡 川に臨む古代・中世の集落世界	47
遺跡紹介 曾根遺跡	60
遺跡紹介 榎本城	63
岩長遺跡展示室オープン	35
大型石椁にみる縄文時代のこころ	74
郷土史 鉄にまつわるエトセトラ(鉄鑑編)	23
郷土史 鉄にまつわるエトセトラ(南山畑編)	22
郷土史 弥生文化の到来 ～天下遺跡探検集土器片について～	15
郷土史跡めぐり 県指定 池田1号墳	32
故磯谷清市氏と考古学	11
古代人のキャンパス	8
拳母城発掘調査報告～今再びその姿をあらわす～	5
拳母藩の御庭焼	33
下山地区の遺跡―遺跡分布調査について―	77
主婦の発掘奮闘記～梅坪遺跡にて～	6
新資料 薬師山古墳出土遺物	18
神宝になった考古遺物―鷹取神社の巻―	71
速報 池ノ表古墳	1
速報 稲荷塚古墳	65
速報 今町遺跡	55
速報 今町宮之後遺跡	67
速報 岩長遺跡	2,9,22～27
速報 梅坪遺跡	1～12,37,49
速報 梶畑遺跡	62
速報 金谷城跡	61
速報 亀首遺跡	62
速報 勘八2号墳	18
速報 郷上遺跡	51,62
速報 古城遺跡	33～36
速報 拳母(桜)城跡	55
速報 拳母(七州)城址	1～4,58,61,65
速報 呑香ジュリナ遺跡	31
速報 ツツ塚	40
速報 三味線塚古墳	26
速報 三味線塚古墳(神明遺跡)	25
速報 新金山遺跡	26～30
速報 神明遺跡	4～10,12,23,24,27,45,55,57
速報 神明社古墳	28,29
速報 千石遺跡	22,23,65～67
速報 高橋遺跡	49,51,62
速報 滝1号墳	24
速報 竹元町十三塚	7
速報 寺部区画整理事業に伴う試掘調査	59
速報 寺部城跡	62
速報 寺部城開連遺跡	20,21,55,62
速報 堂外戸遺跡	49～1,53～5,57～59,61
速報 堂外戸遺跡西地区	61
速報 榎原遺跡	62,63
速報 名古屋海軍航空隊基地	15

速報 南山畑遺跡	8,12,15～22
速報 西川1・2号窯	7,10
速報 西川古窯址群	11
速報 花本遺跡	22,23,30,31
速報 東唐池2・3号窯	5
速報 日向遺跡	21
速報 万加田遺跡	35,36
速報 宮平遺跡	67
速報 吉兼1号墳	39
地中に眠る植物種子	75
豊田大塚古墳出土雲珠と胡録金具に伴う有機質の調査	70
とよたの遺跡とその立地	71
発掘出土資料紹介 焼塩壺	20
発掘資料モノ語り―新金山遺跡の土偶―	32
藤四郎の発掘始末記	90
報告書「京ヶ峰1号墳・谷下古墳」「梅坪遺跡Ⅱ」 「西川1・2号窯」「池ノ表古墳」	13
埋蔵文化財調査速報 寺部遺跡13A区	86
埋蔵文化財調査ニュース	72
埋蔵文化財調査ニュース 勸学院文護寺・寺部遺跡、 寺部遺跡(範囲確認調査)	70
埋蔵文化財調査ニュース 郷上遺跡、上万場遺跡、 烏舟塚古墳	71
埋蔵文化財調査ニュース 高橋遺跡、寺部遺跡	79
埋蔵文化財調査ニュース 寺部遺跡、今町宮之後遺跡	74
埋蔵文化財ってなんだ?	39
矢作川河床埋没林の調査はじまる	54
弥生～古墳時代の鶯鴨・渡川周辺素描～ 吉兼1号墳古窯跡の発掘調査	30,42

■ 資料 ■

「天保の飢饉」を記した鶯鴨若宮八幡社棟札	7
絵図に描かれた豊田の祭り「猿投祭り」と「拳母祭り」	14
季節の民具 炬燵	34
寄贈資料紹介 牧野敏太郎作品二題「雲仙の放牧」「炉辺」	66
古文書紹介 浦野家文書(矢作川鶴首開墾に付) 「建議書」(明治26年)～矢作川治水事業の一頁～	41
古文書紹介 菅沼家文書「測量御用二付書物控」 (文化8年3月)～伊能忠敬一行・九久平村へ来る～	40
拳母藩と源直義について	46
収集資料紹介 最近の収蔵資料から	38
収集資料の紹介 一斗枿、枿かき	3
収集資料の紹介 炭火アイロン	3
収集資料の紹介 猫足膳	35
収蔵資料紹介 被布 風呂敷	36
収蔵資料紹介 絹本帳	30
収蔵資料紹介 測量器具	3
収蔵資料紹介 提重	3
収蔵資料紹介 機織り機	34
収蔵資料紹介 平城京出土土簡(複製)	32
所蔵資料紹介 資料にみる拳母藩の国替 ～内藤家文書から～	66
庶民の生活必需・浮世絵	29
資料紹介 「御茶銘備附」六枚のお茶価格表	65
資料紹介 「改正電業造解書 甲」 あるいは宇都宮三郎『築電論』とその周辺	45
資料紹介 宇都宮三郎の講演記録 「日本工業不幸ノ大原因」	40
資料紹介 子守明神祭礼図 ～江戸時代の拳母祭りを今に伝える～	85
史料紹介 拳母藩内藤家文書「献上塩詰仕立方之覚」 ～將軍も食べた 矢作川の鮎～	38
資料紹介 市域にのこる相撲資料 ～清見湯門人の足跡～	49
資料紹介 下渡川 鹿島神社棟札・扁額	43
資料紹介 鈴木正三の袈裟	44
資料紹介 俳人・鶴田卓池の菅沼鶯洞宛書簡	47
資料紹介 ベリー来航! ～その時、この地域の人々は…～	97
資料調査報告 駒場町徳念寺所蔵の經典調査について	73
新収蔵資料紹介 大夜着	94
新収蔵資料紹介 伸子針	93
新収蔵資料紹介 地理教授標本 陶器	99
新収蔵資料紹介 天神人形	92
新収蔵資料紹介 味噌樽～みそだる～	96
新収蔵資料紹介 山本梅逸筆 蘭図天袋襖	97
新収蔵資料紹介 リードオルガン	95
新資料 「紙本着色 鳥山牛助画像」複製軸	56
新資料 「図面帳」昭和4年～10年 4冊	72
新資料 「茶道録」増補茶道録 ～茶人・又日庵が遺した記録～	50
新資料 『三河八代記古伝集』	11
新資料 『和英語林集成』初版本	11
新資料 一谷詩(扇面)	4
新資料 ある兵士の「奉公袋」～資料が伝えるもの～	67

*タイトルは五十音順で並べています。

*シリーズ名については下記のとおり省略しています。

- ・郷土史→郷土史調査レポート
- ・文化財→文化財シリーズ
- ・神々→ふるさとの神々
- ・産業→ふるさとをささえた産業の歴史
- ・速報→発掘調査速報
- ・鈴木正三→鈴木正三没後350年記念事業にむけて
- ・心→心のふるさと無形民俗文化財祭り・行事・技
- ・新資料→新収集資料紹介

新資料 卯ノ花緞丸具足	4
新資料 海老名三平着丸 甲冑	6
新資料 金森万回回想録草稿	9
新資料 亀倉合一「徹玄斎宗淳」箱書一	27
新資料 絹本着色阿弥陀变相図	17
新資料 金時絵巻紋重箱	24
新資料 黒糸素懸威62問屋兜	1
新資料 御殿雛	1
新資料 拳母御城地井惣絵図	2
新資料 拳母城外東方図	7
新資料 拳母神社祭山車之図	5
新資料 拳母藩内藤家歴代藩主印	2
新資料 千匹大給馬	55
新資料 東京日々新聞(錦絵)	8
新資料 内藤学文書軸「元亨利貞」、 絵巻書「足助」5点、「ひな人形御殿祭り」	63
新資料 尾三古印譜	16
新資料 風外本高 紙本水墨淡彩六曲一双屏風	26
新資料 風外本高画「仙人図」軸、 拳母藩主拝領「袴」、『待ニッポン』	51
新資料 マキノ映画チラシ・広告	9
新資料 牧野敏太郎自画像	4
新資料 松平信光画像(複製)	5
新資料 横浜新報もしほ草	6
新資料 楽善堂 引札	16
新資料 馳鞍橋	19
豊田市郷土資料館展示資料案内 「鯨口」・「三州高橋郡さなげ村検地帳」複製	71

■ 展覧会 ■ 冒頭に「・」があるものは関連記事です

「祝い」の戦後史 ～特別展「祝い―宴・贈り物・芸能―」に向けて③～	75
「まちの風景」の思い出 豊田市郷土資料館開館50周年記念特別展 「ほくらの“1967”～50年前のとよた・日本・世界～」より	100
・「献上塩詰」その後	45
・座談会「ボクたちの見たサブマリノ伝説」	22
・昭和の家庭生活史	17
・杉浦忠さんの野球殿堂入りを祝して	12
・杉浦投手 鉄にまつわるエトセトラ(にはばたく)	20
・鈴木正三 正三ゆかりの寺 賢寂院(長泉寺)	50
・青銅製製作案日記	45
・寺部城と鈴木氏にまつわる伝説	50
・投手・杉浦忠さんの拳母時代	19
・豊田市の自動車普及	26
・豊田ゆかりの映画人 殿様作曲家松平信博	17
・日本最初の化学私塾「錦徑舎」跡 宇都宮三郎補遺	48
・日本中が驚いたシリーズ4連投4連勝	21
・乗合馬車	25
・ふるさとの祭事記 献馬大将一仁田四郎忠常	47
・松平太郎左衛門家と「御参府中日記」	4
・明治に起こった南極ブーム	46
1937～1945:人々の暮らし 一戦時統制下の市民生活を中心に― あかり～古代から近代まで～	12,13,19
あの頃の娯楽―歌舞伎・芝居・浪曲・映画― 劇場 若林座 稲垣錦帯庵展	46,9
大竹千明・光代夫妻コレクション展	43
龍川流域の遺跡群―猿投遺跡調査寄贈資料を中心に― 活動から映画へ～マキノ映画の時代～	16,18
カルタ かるた展	11
川をめぐらう 関連 矢作川の源流域を訪ねるツアー	42
館蔵 化粧の道具展	48
館蔵 藤井達吉展	22
館蔵 又日庵展～稲本林氏寄贈資料を中心に～	46
企画展 古い道具と昔のくらし ～電気がなかった頃のくらし～	73
企画展 没後70年 須藤しげるの世界	95
企画展 「遺跡を探せ!」	68
企画展 「館蔵 藤井達吉展」 ～小原和紙工芸を創った男～	84
企画展 「地下に埋もれた縄文の森 ―矢作川河床埋没林―」開催報告	61
企画展 「とよたの近世城郭―発掘調査成果を中心に―」	66
企画展 「とよたの芸者さん」 近代の芸妓と娼妓	98
企画展 「とよたの芸者さん」後記 豊田市の花街と組合 ～花代をめぐる騒動～	99
企画展 「古い道具と昔のくらし」	69
企画展 「平勝寺二天立像修復記念特別公開」	81
企画展 「むかし」の学校	64
企画展準備レポート 郷土の偉人「須藤しげる」展	56
企画展紹介 古い道具と昔のくらし 大唐昇展	100

※シリーズ名については3ページ記載のとおり省略しています。

内容	号数
キミは杉浦を見たか	21
郷土資料館企画展／新修豊田市史	
『資料編 考古Ⅱ 弥生・古墳』刊行記念	92
この夏キミは考古学者になる	
郷土資料館特別展 茶と器一味・技・心の先駆者一	65
郷土の偉人展より	
初公開資料「卓池門俳句奉納額」「ゆきひろ日記」	39
くらしとはかり	24
御参府中日記展—東海道見て歩く—	4
古代のきらめき—出土品に見る金属加工技術—	44
孝母の明治・大正・昭和—資料にみる郷土のあゆみ—	11
孝母藩内藤家展—孝母のお殿様と人々のくらし—	2
孝母まつりの舞台を訪ねる	
～特別展「祝い—宴—贈り物—芸能—」に向けて②～	74
猊馬大将 —とよたのお祭り—と源氏の伝説—	49
猿投山麓の遺跡Ⅲ	48
知っているかい！干支	18
舎密から科学技術へ—近代技術を抱いた男・宇都宮三郎—	37,38
集落遺跡の語る古代矢作川流域	29～31
常設展の案内	1
縄文土器の世界～田中順三氏寄贈考古資料展～	23
縄文の祈り・古墳のマツリ	
—田中順三氏寄贈考古資料展Ⅱ—	28
食の民俗—弁当箱・ハレの日の食の道具—	34
白瀬中尉の南極探検	45
資料にみる近代とよたのあゆみ	29
鈴木正三 天草に鈴木正三の事跡をたずねて	51
鈴木正三 正三ゆかりの寺 普賢院（二井寺）	49
鈴木正三没後350周年記念特別展	
「鈴木正三—その人と心」	52
続特別展余聞 足助の江戸期塩問屋について	71
地域資源としての「献立表」	
～特別展「祝い 宴—贈り物—芸能—」に向けて①～	73
特別展 「家康の遺宝展」	
関連企画 豊田に残る松平家の山城	94
特別展 「塩の歴史と民俗 三河の塩生産と交易」	69
特別展 「風外本高展—人と画と—」	62
特別展準備レポート 「新・豊田の文化財」展	57
特別展準備レポート 「風外本高展—人と画と—」	61
特別展準備レポート④ 楽善堂の活動から晩年まで	83
特別展への道 ～地芝居と農村舞台～	77
特別展報告	
特別展「茶と器一味・技・心の先駆者—」を終えて	66
特別展余聞 市村威人と中馬、足助塩	70
特別展を終えて ～「地芝居」という文化～	78
豊田英二とその時代	89
豊田市郷土資料館開館50周年記念特別展	
「はくらの“1967”—50年前のよた・日本・世界—」	99
豊田市郷土資料館企画展 歌舞伎衣裳の美	
～竹本辰美大夫コレクション～	93
豊田市郷土資料館企画展	
ハカラン 古い道具と昔のくらし	90
豊田市郷土資料館企画展	
古い道具と昔のくらし～もつ・かつぐ・はこぶ～	97
豊田市郷土資料館特別展開催報告	
「新・豊田の文化財展」を開催しました	58
豊田市近代の産業とくらし発見館企画展	
古い道具と昔のくらし 明治の発明品	87
豊田市の城下町展 中世～江戸期の豊田	35
とよたの近代産業遺産	40
豊田の地中を探検する～最近の発掘調査から～	9
とよたの発掘ファイル'98 夏	25
豊田の文化財展	12,15
日光東照宮宝物展	5
乗り物の歴史	24,27
発見館企画展 孝母駅90年の軌跡ととよたの街	74
ひな人形展	54
ひなまつりの風景—今に続くひな人形の歴史—	3
古い道具と昔のくらし～見直そう！昔のくらし～	76
古絵図展	
～江戸時代の村や町の姿を絵図から探ってみませんか～	32
ふるさとの祭事記 神楽とちやらぼこの笛	48
平成22年度豊田市近代の産業とくらし発見館企画展	
とよたの電燈が灯った日～電力の源 矢作川～	73
平成23年度豊田市近代の産業とくらし発見館企画展	
白瀬藩～夢の南極大陸へ～	79
平成23年度豊田市近代の産業とくらし発見館企画展	
「百々貯木場と今井善六」	77
平成24年度特別展準備レポート①	
岸田吟香の故郷を訪ねて～美作国へ～	80
平成24年度特別展準備レポート②	
岸田吟香とヘボンとの出会い	81
平成24年度特別展準備レポート③	
ジャーナリストとしての岸田吟香	82
平成24年度豊田市郷土資料館特別展	
明治の傑人 岸田吟香	
～日本で初めてがいつぱい！目録・新聞・和英辞書～	83
平成24年度発見館企画展	
「地図に名を遺した人たち～とよたの近代を拓く～」	81
平成24年度発見館企画展関連レポート	
近代化遺産「金山揚水」と「人間模様」	83
平成25年度特別展準備レポート1 足助の矢師	85

平成25年度特別展準備レポート2	
「金の的に中てる」～奉納額と熱い引き達～	86
平成25年度特別展準備レポート3	
孝母藩・東大寺で通し矢開催！	87
平成25年度豊田市郷土資料館特別展	
一弓入魂～とよたの弓文化をさぐる～	87
平成25年度発見館企画展	
「われらの飛行機・孝母号～衣ヶ原飛行場とその時代～」	85
平成26年度企画展	
山に生きた縄文人—「新修豊田市史」の成果から—	88
平成26年度特別展	
「自動車を楽しむ豊田英二—ものづくりのまち豊田市への歩み—準備レポート1 クルマのまち とよた誕生	88
平成26年度豊田市郷土資料館特別展 自動車を楽しむ豊田英二—ものづくりのまち 豊田市への歩み—	89
平成27年度豊田市郷土資料館特別展/徳川家康公400年記念事業 家康の遺宝展～松平から徳川へ～	94
平成28年度豊田市郷土資料館特別展	
「旧家の蔵から～足助の町を彩った商人文化～」出品書状貼交屏風	96
ベルシヤ陶器展	25
法興寺阿弥陀如来立像・胎内納入品特別公開	44
棒の手会館企画展	
豊田市郷土資料館所蔵資料による「花鳥画展」	70
昔のくらし今のくらし	17
村上忠順と蓮月	25
夢 富くじ・宝くじ	8～10
よみがえる猿投薬	6
我が家の愛蔵品展	
—市民出品による家宝・愛蔵品の展示会—	14,16

■文化財■

「旧龍性院庭園」国の名勝指定へ	97
「豊田市藤岡民俗資料館（旧藤岡中学校特別教室棟）」国の登録有形文化財（建造物）へ	97
江戸時代の城下町・寺部に残る武家屋敷の長屋門	97
織田信長像 修理報告	100
近代化遺産紹介 寿町の達磨窯	56
国指定史跡「松平氏遺跡」	31
絹本着色無為昭元像	5
猿投神社所蔵重要文化財 古文孝経	47
山間地の希望を乗せ 走り続けた76年	
名鉄三河線 猿投—西中金廃線跡の思い出	95
重要文化財 旧鈴木家住宅の修理について	93
祝 重要文化財指定 旧鈴木家住宅の屋敷構えの変遷	85
新指定の文化財	64
寿町の達磨窯、寺部城跡、馬場瀬古墳群	
新指定文化財紹介 村上天千巻舎・門	61
新登録文化財紹介	61
名鉄三河線 旧三河川瀬跡と旧西中金駅	
登録文化財 名鉄三河線旧西中金駅 駅舎の曳家工事	90
トピックス 合併した旧町村の指定文化財	52～55
豊田市有形民俗文化財	82
寿町の達磨窯～村瀬さんと達磨窯～	
豊田の文化財 櫻鳥糸威鎧大袖付	3
豊田の文化財 衣下町の図	2
豊田の文化財 手呂の銅鐸	1
豊田の文化財 松平城址	4
如意寺本堂・書院・山門・鐘樓・太鼓樓	82
百々貯木場	5,23
仏像のスズメ～新指定の仏像から～	94
文化財 足助乾漆技法 矢の製作技法	62
文化財 鎧	6
文化財 綾渡の夜念仏と盆踊	58
文化財 市木辻堂	13
文化財 市場城跡	72
文化財 伊保郷印	30
文化財 今川義元文書	39
文化財 岩倉神社舞台	37
文化財 ウシモツゴ	43
文化財 内行花文鏡	12
文化財 大沼雅楽	65
文化財 大給城址	36
文化財 押井の磨崖仏	66
文化財 小原歌舞伎	59
文化財 小原村前洞のシキザクラ	71
文化財 貞真寺の梵鐘	9
文化財 角环（梅坪遺跡）	11
文化財 カモシカ	85
文化財 革製電頭馬面	32
文化財 カワバタモロコ	44
文化財 旧井上家住宅西洋館	40
文化財 旧海老名三平邦飛宅（江戸後期小農家）	77
文化財 旧神谷鈴木家住宅	81
文化財 旧三河川瀬跡 旧西中金駅	69
文化財 旧山内家住宅	64
文化財 雲版	33
文化財 今朝平遺跡出土品	68
文化財 華鬘	83
文化財 絹本着色阿弥陀二十五菩薩来迎図	22
文化財 絹本着色聖徳太子画像	16

文化財 絹本着色親鸞上人絵伝	52
文化財 絹本着色太陽神師像	34
文化財 絹本着色渡辺半蔵守綱像	21
文化財 絹本着色仏涅槃図	87
文化財 琴平町のシデコブシ	46
文化財 御免富興行立札	10
文化財 孝母神社の山車	61
文化財 酒吞ジュリンナ遺跡	17
文化財 猿投神社文書	75
文化財 三角縁神獸鏡	8
文化財 七州城図および図説	29
文化財 七州城大手門跡	20
文化財 紙本着色織田信長像	15
文化財 シラヒゲ草自生地	47
文化財 神明遺跡台地	14
文化財 杉本の貞観スズ	73
文化財 鈴木正三遺跡	45
文化財 聖観音菩薩立像	91
文化財 銭太鼓	7
文化財 銭太鼓	57
文化財 千手観音立像	86
文化財 崇化館記	27
文化財 太刀 銘行安	55
文化財 良屋岡本家住宅	76
文化財 寺部寺址	41
文化財 天然記念物（菊石・樟）	24
文化財 隣林寺本堂	79
文化財 巴川の鮎穴	48
文化財 巴川の鮎穴	56
文化財 豊田大塚古墳出土須恵器	28
文化財 豊田大塚古墳出土須恵器	53
文化財 長篠・長久手合戦図屏風	62
文化財 人形淨瑠璃の首と衣裳	47
文化財 野風呂	51
文化財 馬具（辻金具）—梅坪遺跡—	26
文化財 久木の木偶 付馬道具	70
文化財 棒の手	60
文化財 又日亭	50
文化財 松平元康刺札	23
文化財 水汲遺跡出土縄文土器	80
文化財 六磨邸	49
文化財 村上天千巻舎	78
文化財 木造十一面観音像	18
文化財 木造十一面観音立像	54
文化財 木造鈴木正三和尚坐像	31
文化財 木造徳川家康像	74
文化財 木造鳥山牛助坐像	25
文化財 木造松平親氏座像	5
文化財 八柱神社の樟	38
文化財 八柱神社の樟	63
文化財 六所神社舞台	19
文化財 若宮神社のクス	84
文化財 渡邊家歴代画像	35
松平氏遺跡（高月院）の保存修理	81

■民俗■

愛知県編纂民俗調査から	41
神々 岩倉神社	8
神々 糟日春日神社	9
神々 孝母神社	11
神々 猿投神社	10
神々 野見神社	6
神々 灰賀神社	5
神々 広沢神社	7
神々 八柱神社の謎とロマン	45
神々 若林八幡宮	12
旧山内家住宅と旧平岩家住宅	84
心 業者まつりとチャラボコ	37
心 伝統的郷土芸能支援—平成15年度事業の概要—	43
心 とよたのオモト	44
心 とよたの郷土芸能—神楽・祭り囃子—	40
心 とよたの郷土芸能—天王祭りの芸能—	41
心 とよたの郷土芸能—甞る農村歌舞伎—	42
心 とよたの戦後いけばな史	31
心 夏の風流—豊田の盆踊り—	36
心 西山万歳—正月の風物三河万歳—	35
心 ふるさとの芸能 “同族祭り” 高橋町水野氏の氏神 十二社の祭り	32
心 ふるさとの芸能 “能”	30
心 盆の供養行事—練り供養—	33
心 松平東照宮春まつり	24
心 万燈祭り	26
心 巫女舞と里神楽	38
古民家の見方① 土蔵にみる耐火の工夫	77
古民家の見方② エコロジーな工夫	78
縞帳～私たちの宝物～、	
「縞本帳」の調査と孝母の木綿について	99

※シリーズ名については3ページ記載のとおり省略しています。

内容	号数
世界民族芸能祭「ワッショイ! 2000」	34
大正口マンあふれる建物「喜楽亭」をご存知ですか?	78
団九郎の岩屋伝説～民話の伝播～	91
豊田市の「花のとう(おためし)」	98
民具調査だより「アンボンタン」は、お利口さん。	75
民具調査だより「はねくり備中」を知っていますか	74
民具調査だより X脚型唐箕	100
民具調査だより 足踏み脱穀機～ガーコン	76
民具調査だより 足助の蔵から～家庭用吸入器	83
民具調査だより 足助の蔵から～鉄漿付けの道具	84
民具調査だより 温まる道具～湯たんぼ・湯湯婆・湯丹保	78
民具調査だより 企画展 重要文化財 旧鈴木家住宅収蔵品展 あかりの道具	85
民具調査だより 車で荷を運ぶ 大八車	97
民具調査だより 魚をすく道具～セセリ	77
民具調査だより 商家の道具 2～茶壺と茶箱	81
民具調査だより 鉦の硯蓋 (いっかけのすずりぶた)	82
民具調査だより 商家の道具～煙草盆・炭盆(たばこぼん)	80
民具調査だより 炭を使う道具 火熨斗と炭火アイロン	94
民具調査だより たしなみの道具 春慶塗の折敷と八寸	95
民具調査だより 土人形(土びな)を考察する	91
民具調査だより 時を計る道具	90
民具調査だより トクさの籠・漆喰彫刻 4 態	79
民具調査だより 直して使う～錆掛と焼接	93
民具調査だより 荷物を運ぶ 荷なう担ぐ背負う	96
民具調査だより 量り売りと貧乏徳利	92
民具調査だより 星丸一勝男武士	87
民具調査だより 民具の材料を理解する～藤と蔦	99
民具調査だより 民具の調査・登録で思うこと	86
民具調査だより 屋根にあがった鍾馗さん	89
民俗資料館(民家)の構造と特徴	39
すのご天井とくぐり戸	39
民俗資料館の紹介	39
■歴史■	
「ナカダシ」と百々貯木場～矢作川の水制跡～	49
飯田街道 初代の矢作川越え	97
遺跡紹介 大桑城	57
遺跡紹介 川口城	58
郷土想いの寄進が国宝を守った 灰宝神社の神庫	98
郷土史 五日市場と下江湊	43
郷土史 安藤早太郎脱藩の謎(後編)	6
郷土史 安藤早太郎脱藩の謎(前編)	6
郷土史 旧「枝用水路」の遺構	45
郷土史 庚申さん	35
郷土史 小堀四郎画伯と寺部渡邊家	16
郷土史 拳母藩内藤家と彦根藩井伊家～拳母藩史・新視点を探る～	42
郷土史 桜城(拳母城)	37
郷土史 猿投にあった鷹見一族のルーツ	10
郷土史 猿投山トロミル水車素描	7
郷土史 白瀬中尉のふるさとのを訪ねて	4
郷土史 大正・昭和における鉄道敷設計画とその実現	21
郷土史 卓池の門人・青可と鶯岡	33
郷土史 だるま窯の調査～瓦窯の測量～	36
郷土史 中世絵画に見る鹿杖	28
郷土史 日本近代科学工業の父 宇都宮三郎～その業績と略歴～	13
郷土史 明治・大正の拳母の人口～国勢調査の始まる以前～	12
郷土史 明治期における鉄道敷設計画	14
郷土史 明治初期の西加茂郡の産物と風土	32
郷土史 明治用水旧頭首工の人造石工法	34
郷土史 矢作川の材木流通と貯木場建設	31
郷土史 矢作川をめぐる梅坪村・寺部村の川境争い	26
郷土史研究レポート 藤沢煤葬と千匹絵馬	59
郷土史調査レポート 「カイゼン」の元祖!?・宇都宮三郎	63
郷土史調査レポート あるいた・みつけた 遺跡分布調査	63
郷土史調査レポート 越戸ダム願末記	69
郷土史調査レポート 忠順が見ていた後姿	62
郷土史調査レポート 白蓮と足助	90
近代化遺産探訪 台地を潤す用水～近代化遺産の今～	85
近代化遺産紹介 伊世賀美隧道と大正時代の鉄筋コンクリート(RC)アーチ橋	57
近代化遺産紹介 矢作川水系の水力発電所	58
近代建築 一時を映す建築物～	42
国附町八柱神社の奉納剣 一製作年号の刻まれた珍しい銘一	82
拳母から北海道へ羽ばたいた歴史家～伊藤初太郎氏について～	69
拳母藩内藤家墓所	51
産業 映画館看板絵	25
産業 活版印刷	22
産業 瓦産業	19

産業 麹一醸造(酒・味噌・醤油)の素一	24
産業 蚕糸業と加茂蚕糸	13
産業 酒造業	27
産業 石材業	18
産業 竹材業	16
産業 茶業	20
産業 堤燈	21
産業 天然醸造の味噌	28
産業 時の記録・写真	29
産業 農耕治(野鍛冶)	15
産業 神輿	23
産業 矢作川漁業協同組合	14
人造石工法の水制「オオダシ」一統・矢作川の水制跡一	51
神宝になった考古遺物～野見神社の巻一	65
製糸用錐について～拳母城跡発掘調査補遺一	91
小さな猿投村が一世風靡した 三水湖と観光の歴史	96
どっちの民俗 SHOW!!～歌舞伎と弓道一	87
殿様とそば	27
巴川通船計画の行方 河床に刻まれた鑿のあと	37
豊田の近代化を支えた産業 ガラ紡	40
とよたの近代和風建築	53
とよたの小話 野見の流れ橋(鶉の首橋)	43
とよたの小話 六鹿邸の歌人	41
とよたの女性史～女流歌人 深見年之(愛子)	53
豊田の城を歩く 足助城(真弓山城・松山城)	89
豊田の人 映画助監督塚本芳夫	25
西三河山間部における山茶碗の分布 一藤岡・小原・足助・旭の遺跡詳細分布調査より一	72
藤岡・小原地区における近代の陶器生産について	96
牧野義雄・郷土の偉人としての評価について	73
松平のガラ紡	17
ミツドンブリを追いかける 近世・近代の食文化(2)	81
ミツドンブリを追いかける～近世・近代の食文化(1)～	78
ミツドンブリをおいかけ～近世・近代の食文化(3)～	87
名鉄三河線 猿投～西中金	48
もう一人の殿様茶人～御深井焼水指からわかること～	92
矢作川・越戸土場跡について	47
矢作川の築	41
山田金正氏と町有飛行機・拳母号～山田金正氏を追悼して～	86
夢あふれた枝下吊り橋跡	94
■その他■	
「郷土資料館 50 年」「郷土資料館だより 100 号」そして未来へ	100
「第3回とよた歴史検定」を開催します! 受験者募集中!!	96
「とよた歴史マイスター」大募集	96
愛知県近代化遺産(建築物等)総合調査について	41
足助町の「鈴木正三跡公園」が完成	50
足助の町並み～重要伝統的建造物群保存地区選定後の新たな取り組み～	90
足助の町並みでの発見	86
足助の町並みでの発見～小路について～	83
足助の町並みの保存と活用 一豊田市足助伝統的建造物群保存地区一	78
活躍しています!! 地域学習サポーター!! 一郷土学習スクールサポートの現場から一	86
館報の発行にあたって	1
郷土学習スクールサポート	93
郷土の文化財を活用した歴史学習をサポート	93
郷土学習スクールサポート事業 恵まれた時代に生きるみなさんへ 戦争体験者(陸軍特別甲種幹部候補生)の話	79
郷土資料館 博学連携ノススメ	64～66,71
郷土資料館のあらまし	1
郷土の文化財に学ぶ 一郷土学習スクールサポート事業の見学・出前授業から一	83
近代から「とよた」を発見する 近代の産業とくらし発見館	54
こどもと博物館を考える	30
探しています!! 市域の古写真	57
市史編さん報告 市史刊行計画が決まりました!	62
市史編さん報告 新修豊田市史の編さん事業スタート	60
市史編さん報告 平成 20 年度の活動について	63
市史編さん報告 平成 20 年度の活動について	67
寺社文化財調査	19
重要伝統的建造物群保存地区選定から 1 年	80
新規開館施設紹介 豊田市歌舞伎伝承館	98
スクールサポート事業 高橋の歴史を調べてみよう!	75
スクールサポート事業 豊田地域学習サポーター事業開始	73
鈴木正三和尚ゆかりの 熊本県本渡市本町まちづくり実行委員会一行が来訪	43
石造文化財の調査	2
建物履歴の追及 文化財建造物の調査について	82
多様な歴史・文化・自然に囲まれた豊田市がつくる新しい博物館	100
地域資源としての文化財の保護と活用 「近代化遺産の保存と活用 基本方針」について	67

地域資料館紹介	56～59
とよた iマップに「文化財・遺跡マップ」登場	89
豊田市足助伝統的建造物群保存地区 重要伝統的建造物群保存地区選定 3周年 町並みという文化財	89
豊田市近代の産業とくらし発見館 発見館 10 年の歩み	93
豊田市近代の産業とくらし発見館 平成 21 年度事業報告	72
豊田市昭和史人物調査	26
豊田の古文書調査	4
豊田の城ここが面白い!! ～素人 K の豊田の城案内～	96
豊田の方言調査	3
とよた歴史マイスター活動報告	98
夏のおでかけ おすすめ文化財スポット!	92
博物館実習実施報告	29,33
博物館ってどんなところ? 「展示って何? ～博物館実習・模擬展示の試み～」	83
博物館ってどんなところ? 豊田市郷土資料館と博物館活動の今後	77
発見館 平成 20 年度事業報告	68
発見館からのお知らせ 平成 18 年度事業報告と平成 19 年度予定事業紹介	60
発見館からのお知らせ 平成 19 年度事業報告	64
火の手から文化財を守る放水銃	75
ふるさとの語り部調査	1
平成 10 年度の主要事業報告	28
平成 11 年度の主要事業報告	32
平成 12 年度の事業報告	36
平成 13 年度の郷土資料館事業報告	40
平成 14 年度の郷土資料館事業報告	44
平成 15 年度の郷土資料館事業報告	48
平成 16 年度郷土資料館事業報告	52
平成 17 年度郷土資料館事業報告	56
平成 17 年度埋蔵文化財調査の概要	56
平成 18 年度郷土資料館事業報告	60
平成 18 年度埋蔵文化財調査の概要	60
平成 19 年度文化財保護事業報告	64
平成 19 年度埋蔵文化財調査の概要	64
平成 20 年度文化財保護事業報告【文化財保護事務】	68
平成 20 年度埋蔵文化財調査の概要	68
平成 21 年度文化財保護事業報告	72
平成 21 年度埋蔵文化財調査の概要	72
平成 22 年度近代の産業とくらし発見館事業報告	76
平成 22 年度豊田市郷土資料館子ども講座年間報告	76
平成 22 年度文化財保護事業報告	76
平成 22 年度埋蔵文化財調査の概要	76
平成 23 年度スクールサポート事業報告	80
平成 23 年度豊田市近代の産業とくらし発見館事業報告	80
平成 23 年度文化財保護事業報告	80
平成 23 年度埋蔵文化財調査の概要	80
平成 24 年度郷土学習スクールサポート事業報告	84
平成 24 年度豊田市近代の産業とくらし発見館事業報告	84
平成 24 年度文化財保護事業報告	84
平成 24 年度埋蔵文化財調査の概要	84
平成 25 年度郷土学習スクールサポート事業報告	88
平成 25 年度豊田市近代の産業とくらし発見館事業報告	88
平成 25 年度文化財保護事業報告	88
平成 25 年度埋蔵文化財調査の概要	88
平成 25 年度博物館実習について	86
平成 26 年度郷土資料館事業報告	92
平成 26 年度文化財保護事業報告	92
平成 27 年度郷土資料館事業報告	95
平成 27 年度文化財保護事業報告	95
平成 28 年度郷土資料館事業報告	98
平成 28 年度文化財保護事業報告	98
平成 4 年度の主要事業報告	4
平成 5 年度の主要事業報告	8
平成 6 年度の主要事業報告	12
平成 7 年度の主要事業報告	16
平成 8 年度の主要事業報告	20
平成 9 年度の主要事業報告	24
マイスター募集中!! とよた歴史マイスター活動報告	95
歴史好き大募集!! とよた歴史マイスター「事業はじまる!	91
歴史好き大募集! 第二弾「とよた歴史検定」実施レポート 次回あなたの挑戦を待た!	91
歴史的町並みの保存とまちづくり 一伝統的建造物群保存地区制度一	72～75
歴史的町並みの保存とまちづくり 一伝統的建造物群保存地区制度一	76
歴史的町並みを守る防災の取り組み	96

日本史の中で、この織田信長像は、織田信長の肖像の中でも“超メジャー”、知らない人はいないといっても過言ではないと思われます。

しかし、この像が豊田市の長興寺になぜあるのか、それを知る人は少ないと思います。本能寺の変から一年後（1583）、長興寺で一周忌法要が営まれ、生前のお姿を偲ぶために制作されました。今なら在りし日の写真となりますが、寄進者である余語正勝は、大恩ある殿に接見したことのある狩野永徳の弟の元秀に依頼したものとされます。右に、修理前と修理後の写真を掲示しますので参照しながら説明を読み進めてください。

1 目で見える相違点

修理前は画面全体に横方向の折れが目立ち、よく見ると亀裂になりつつあることがわかります。また、虫食いや黒カビもあり、全体に薄汚れ波打っていて、危険な状況であるのがわかります。

その状況を踏まえ、国宝修理で定評のある岡墨光堂に依頼し、解体修理をしました。裏打ちを総取り替えることによって、全体に走っていた横折れはなくなり、最小限行われた補彩と相まって、明るい印象になっています。また、昭和20年の修理では仏画装で仕立てられていましたが、制作時には掛軸装と考えられますので、文化庁の指導によって変更しました。そのため、より信長様好みのゴージャスで素敵な装いとなりました。

2 科学の目による調査でわかった事

顕微鏡下で行われた紙質調査により、竹繊維が確認され、中国伝来の竹紙が使用されていたことがわかりました。その特性によって、使用された絵の具の褪色がほぼありませんでした。

また、蛍光エックス線による調査により、畳の緑と衣の緑は、異なる材料によるものとわかりました。畳は、銅が検出されたことにより、緑青だとわかりました。衣からはカルシウムが検出されましたが、複雑な混色が考えられ、有機染料が使用されたこと

がうかがわれます。

竹紙は、ほぼ中性で絵の具の経年劣化を最小限にする働きがあり、作者である狩野元秀は特性を見極め使用したものと思われます。



【修理前】



【修理後】

3 そして今回の平成の大修理を終えて

前回の昭和20年の修理は、修理報告書や申し送りなど、具体的で詳細なかたちでは何も残っていませんでした。ただ旧軸にこの修理にあたった表具師の墨書が残っていて、これを仕上げた後に応召されたとあり、戦争末期の緊迫感がヒシヒシと伝わってきます。この修理の際に、画面裏側から狩野の署名と朱文壺印があらわれたため、これを見せるために、裏打ち紙を部分的にくり抜く加工を施していました。そのため画面の表にいろいろな損傷が出てしまっていたと考えられたので、今回は、あえて写真記録で署名落款を残し、当初の様に裏打ちを行いました。



署名落款

郷土資料館でよく展示される、信長像の複製は変色しつつあり、本物の信長像は変色がないのはなぜだと、疑問に思っていました。科学的調査により、本紙と裏打ち絵の具の素晴らしいマッチングの妙を見せられた感があります。今回の修理によってこの像は、健康を取り戻したと確信し次世代にバトンタッチできたと思います。今回の大修理に立ち会えたことに感謝します。前回の修理は、終戦直前の何もかもが混乱のさなか、関わった小栗鉄次郎が事細かに書き残していないことから、いろいろな事情が感じられます。

(詳しくは、名古屋市博物館企画展展示図録・「小栗鉄次郎―戦火から国宝を守った男」を参照してください)

4 これからの展示公開について

さて、これほど素晴らしく復活した信長像を見たいと思うのは誰しもと思われませんが、如何せんこの像を展示できる場所がありません。以前郷土資料館で展示できたのだから、良いではないか？と思われませんが、文化庁の方針では「ノー」だそうです。初披露は、今夏、修復以前より依頼のあった岐阜市歴史博物館での展示となりました。豊田市で初披露できなかったのは残念でした。

豊田市に博物館を建設するのは急務であり、悲願でもあります。思い起こせば国内で現存する最古の大鎧のうち原型を留めるものは、猿投神社に伝わったもので現在は東京国立博物館にあります。東博でこの大鎧を見るにつけ、博物館ができたあかつきには、帰ってきていただきたいと切に願います。



榎鳥糸威鎧大袖付

5 個人的見解（絵描きとしての）

近年、大徳寺の信長像は、解体修理により、軸木に墨書で三回忌に使用とあることが判明しました。修理以前は、大徳寺、長興寺の順で制作されたと考えられていたのですが、大徳寺の像が三回忌に使用されたと確定しました。しかし、科学的調査によって描きなおしがわかりました。

私の想像では、永徳によって葬儀用に描かれ秀吉の命によって、三回忌には二本差を一本に、派手な衣装を地味に、背景を暗くしたと思われま。描きなおし以前の作を元秀は近くで見えていて、自分に依頼が来た時に参考にし、彼なりの解釈を加えたものと感。短時間に秘密裡に描くため、用具の選定にはかなりの工夫が見られます。また、信長様らしさを表現するために赤の肌着に桐紋の白小袖重ね、桐紋の肩衣と二引両筋の長袴という、当時の最先端トレンドファッションにし、お顔や衣服にも、自分なりの解釈を加えながら描かれたと思います。衣服の緑は当然緑青かと思われていましたが、有機染料の混色と分かり、藍と藤黄もしくは丁子とうおうが考えられますが、確定はできません。ただたくさんの制約の中、絵描きの性としてより良きものを作りたい、あれを超えたいという欲はあったのではないかと思います。構想をガッチリ固め、線描も彩色も一発で決めています。迷いなく最高水準の技量を表しています。

最後に、この像と対面したら、信長様の眼をじっくり鑑賞してください。驚くほどの力がみなぎっています。何と表現したらよいのか、私は極近くで拝見させていただいた後、目を閉じると残像で眠れなくなるほどでした。

元秀は、永徳の弟、号は宗秀であります。この像の中に隠し入れた署名と落款に、彼はどんな思いを込めたのでしょうか。永徳の下で自分を抑えて仕えていましたが「後世の誰か気が付いてくれ」の想いを封じ込めたのでしょうか？あなたのこの作品は、一番信長様らしいと後世の我々は認識しています。教科書にも、信長様関連の書籍・テレビにも、この像がよく使われています。今回の修理は、良い時期に最高の方法で行われました。この状態を維持し、次世代に伝えるためにも、ベストな保存・管理・展示のできる博物館と、それを活用できる人材の育成が必要です。豊田市民のバックボーンとなる博物館を切望します。

(豊田市文化財審議会委員 後藤嘉寿美)

多様な歴史・文化・自然に囲まれた

豊田市がつ

豊田市郷土資料館は、今年で開館50周年です。50年の歩みの中で、郷土の文化財や偉人、歴史・文化に関わる資料を収集するとともに、100回以上の展覧会で紹介してきました。また、展示だけでは分からない歴史の面白さを、各種体験講座や郷土学習スクールサポート事業、資料館だよりなどを通して発信する取組も行ってきました。そして、平成27年（2015）からは、市民の方と一緒に活動する、とよた歴史マイスター活動もスタートしました。



豊田市郷土資料館

こうした取組を続けるのと並行して、豊田市は新しい博物館の整備計画を進めています。このことは新聞等の報道でご存知の方もいらっしゃるかと思います。ここでは、①なぜ新しい博物館が必要なのか、②どのような博物館を目指すのか、という2点について、簡単ではありますが、説明させていただきます。

①なぜ新しい博物館が必要なのか

近年、博物館へのニーズが多様化しています。それは、歴史や文化財に関する問合せの増加、懐かしい昔の道具などに触れることで健康な心身を保つ「回想法」の実施、障がい者・外国人・子ども連れ・高齢者などの様々な利用者が快適に利用できる「ユニバーサルデザイン」の導入などに端的に表れています。



スクールサポートの様子

豊田市郷土資料館においても、年々活発になっている郷土学習スクールサポート事業や、とよた歴史マイスターの活動に関わる中で、また、生涯学習講座受講者のご意見などから、地域の歴史や文化を知る機会、学ぶ機会の拡充が期待されていることをヒシヒシと感じます。また、「回想法」を実施したいので資料を貸してほしいという問合せも増えており、郷土資料館の資料が役立っていることを嬉しく思います。

このような社会の動きがある中で、昭和42年に開館した郷土資料館は、残念ながら新たなニーズに応えられる施設機能を十分には備えていません。加えて、施設の老朽化や、矢作川の氾濫によって浸水する位置に立地していることなどから、郷土資料館の重要な役目である「市の宝である文化財」を未来へ伝えていくことに対するリスクを常に抱えている状態です。

また、現在の狭小な郷土資料館では、合併後の新しい豊田市の歴史・文化の全体像を紹介していくことは難しく、その役目を十分に果たしていません。

郷土の歴史や文化は、自分たちが暮らす地域の成り立ちを知り、その未来を考えていく上で、欠かすことのできないものです。さらに、現在の豊田市は、市域の約70%が森林です。この森林や

くる新しい博物館

市域を貫く矢作川を始めとした河川など、豊かな自然は郷土の歴史や文化を語る上で、重要な要素になります。歴史・文化と、それを取り巻く自然を通じて、豊田市の魅力と価値を伝え、発信していく拠点として、博物館が必要となると考えています。



マイスター活動の様子

②どのような博物館を目指すのか

豊田市は、様々な自然環境とその中で育まれた歴史に恵まれ、幾多の市町村合併や産業の発展を経て成り立つ都市です。とりわけ、自動車産業とともに発展してきた豊田市は、他の市町村と比べ、市外から移ってくる人が多く、多様な歴史背景や文化を有する人々が共存する都市だと言えます。

自分たちの住むまちに愛着を抱き、誇りを持ってもらうことができるような展示・活動を通して、もともと住んでいる人、市外から移ってきた人、その誰もが、豊田市を「ふるさと」と感じてもらえる博物館にしたいと考えています。

そのためには、市民の皆さん、来館者の皆さんと、一緒になって魅力あふれる博物館をつくっていく必要があります。目指すは、「みんなでつくり続ける博物館」です。

そこで、計画段階から市民の皆さんに関わってもらうことが、「みんなでつくり続ける博物館」の第一歩だと考え、これまでに3回の市民ワーク

ショップと市民アンケートを行い、理想の博物館像について意見を寄せていただきました。すると、新しい博物館には、資料を見るだけでなく、触れて感じられるような五感で体験できる活動や、皆で学んだことを発表し、展示に反映できる主体的な活動などが強く求められていることが分かりました。博物館へのニーズは、単に“見る”ことだけに留まらず、“関わる”ことへと移行していると考えられます。これからの博物館は、基本的な活動である収集・保存・展示などの活動に加え、市民の皆さんが主体的に“関わる”活動を充実させていくが必要になるでしょう。

豊田市の新しい博物館は、冒頭で述べた郷土資



第2回市民ワークショップ

料館の活動に加え、この“関わる”部分を大切にしながら、「みんなでつくり続ける博物館」として活動していきます。さらに、徳川家のルーツである「松平家」のフロンティア精神や、日本のモータリゼーションを牽引した人々の思いと地域が育んだ「ものづくり」精神など、今もこのまちに息づく人々の思いに触れ、未来のとよたを創っていくための気づきが得られるような、豊田市ならではの博物館、豊田市というまちの魅力を発信できる博物館を目指していきたいと考えています。

(伊藤 圭一)

「まちの風景」の 思い出

豊田市郷土資料館開館50周年記念特別展 「ぼくらの“1967”-50年前のとよた・日本・世界-」より

今回の特別展では、かつて『広報とよた』などに使用された写真の中から、50年前頃の「まちの風景」を紹介しました。ここでは単に古い写真だけではなく、その場所の現在の写真も併せて提示するとともに、今回の特別展のプロジェクトに参加していただいた「とよた歴史マイスター」の皆さんに、1970年の都市基本図と「まちの風景」の写真を見ながら、当時の思い出を語っていただきました。



地図と写真を見て作業をする「とよた歴史マイスター」の皆さん

また、「昭和40年代の思い出の風景」の地図を来館者の方達と一緒に作り上げる展示コーナーを設け、「よく買い物をした店」や、「遊んだ場所」などの記憶を付箋に書き込んで地図に貼っていただきました。これにより、120件以上もの記憶を収集することができました。会期中に展示が発展していく面白さだけではなく、さらに今後、新博物館に



来館された方と「とよた歴史マイスター」が思い出を語り合う様子

おける現代史展示を構築する上でも有益な情報となりました。「とよた歴史マイスター」の皆さんと一緒に展示を企画・制作することができた事例として、当館としても貴重な経験となりました。ご協力いただきました皆様、ありがとうございました。

(杉浦 裕幸)



思い出や記憶を書いた付箋が貼られた地図

海を渡り 棒の手披露 行われる

11月3～5日、アメリカ・デトロイト市で開催された「ジャパン・カルチュラル・デイズ」で豊田市棒の手保存会が棒の手演技を披露しました。

豊田市とデトロイト市は、姉妹都市提携を結んでいる縁もあり、デトロイト市側からの依頼を受けて今回の公演が実現しました。同保存会からは12名が参加し、この地域で古くから伝わる郷土芸能を海外に向けて情報発信することができました。

(久野 雄二)



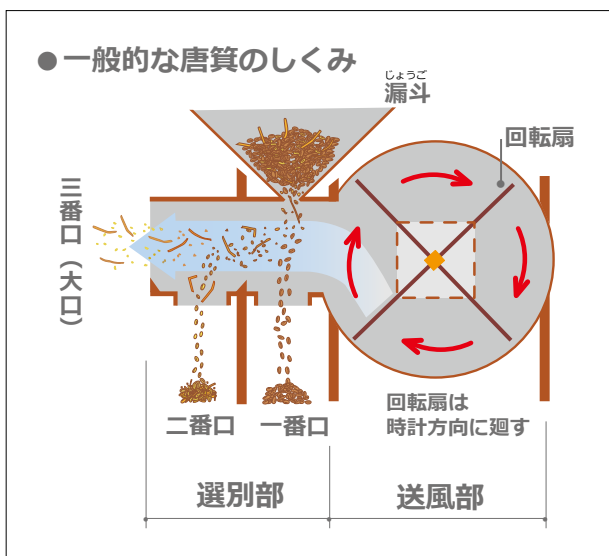
デトロイト美術館で演技を披露している様子

X脚型唐箕



唐箕は風の力を利用して穀物を精選する農具で、主に稲作り作業の場で用いられた道具です。脱穀した稲^{だっこく} 籾^{いね}を籾とワラズやゴミ、実の入っていない糶^{しいな}（空籾）に選別したり、精米して玄米と籾殻が混ざったものから、籾殻を取り除く作業に使われます。米作りでの選別作業以外にも風選の原理を利用して、お茶造りや養蚕作業の中でも唐箕は使われました。

●一般的な唐箕のしくみ



一般的な唐箕は上図にみるように、構造的には円形の太鼓状の送風部と四角のトンネル状の選別部とに大きく分けられます。

■半唐箕

今回取り上げる「X脚型唐箕」は、一般的な唐箕の送風部の部分のみで成り立っているものです。このような形態の唐箕は「X脚型唐箕」「半唐箕」「手唐箕」もしくは単に「唐箕」と呼ばれており、豊田市北部地域、北設楽郡、旧南設楽郡、旧宝飯郡、額田郡、長野県の下伊那郡、飯田市、岐阜県の恵那市の一部（旧串原村、旧岩村町）などの地域で使われてきました。日本のごく限られた地域のみ分布しているこのような形態をしたX脚型唐箕がなぜ出現したのかを改めて考察しなければなりません。

X脚型唐箕の存在をひも解くひとつのヒントになるのが、豊田市郷土資料館で登録している唐箕の中に、送風部と選別部とが分離できる形式のものが登録総数の3割近くあるということです。一般的な分離できない一体型のものと区別するため、分離できる形式のもの

〈X脚型唐箕〉

じょうご
箱形の漏斗を風の吹き出し口にに取り付けて使います。



稲武郷土資料館 収蔵品

●回転扇は3枚・木製歯車 W1290 H1255 D670

〈分離式の唐箕の例〉8脚左勝手・木製歯車



分離前

分離後

のを「分離式唐箕」として登録をしています。



左の写真は、選別部を分離し、送風部に新たに送風口を取り付けた姿。形はX脚型唐箕にそっくりです！

一番口、二番口を備えていないX脚型唐箕の箱形漏斗では穀物の微妙な落下調整はできませんので、細やかな精選

作業を行うには、これを扱う人の技量が重要視されます。大豆や蕎麦などの選別作業であれば問題はないようですが。

■送風器として

右の写真の手回し扇風機は蚕に食べさせる桑の葉を乾燥させるために導入されたものだといわれています。X脚型唐箕の分布圏をみると養蚕に深く関わっていた地域だと想像できます。したがって、この手回し式扇風機の普及する以前には、X脚型唐箕や分離式唐箕の送風部を、桑の葉の乾燥のみならず微妙な温度調整が必要な、蚕室への送風にも用いたのではないのでしょうか？唐箕と呼ぶよりも送風器と称したほうがよいのかも知れません。



…『佐渡金山絵巻』にも「風廻しトウミ」として送風のために唐箕様のものが描かれています。

(東海民具学会 岡本大三郎)

平成 29 年に、豊田市郷土資料館は開館 50 周年を迎えました。50 年かけて集めてきた資料は数多く、なかでも「唐箕」は 80 台程度を収蔵しています。

「唐箕」とは、風の力を利用して藁やゴミと充実した粉を分けることのできる農具です。詳しい仕組みは本紙 11 ページの「民具調査だより - 25 X 脚型唐箕」をお読みください。

唐箕が登場する以前は、むしろやうちわを使って穀物を精選していましたが、唐箕の誕生で、作

業効率は格段に良くなりました。後に登場した動力脱穀機により、その姿を減らしていきましたが、唐箕はかつての農家にとって大切な道具



風神くん

でした。

今回の企画展では、この唐箕に着目し、郷土資料館開館 50 周年にちなんで、50 台の唐箕を一同に展示します。当館が 50 年かけて集めた唐箕を、この地域の唐箕の特色に触れながら紹介します。

(門司 祐里奈)

「大うちわ」
東栄町民芸館所蔵「唐箕」
豊田市郷土資料館蔵

■ 豊田市郷土資料館開館 50 周年記念企画展 ■ 古い道具と昔の暮らし 大唐箕展

会 期：平成 29 年 12 月 16 日 (土)
～平成 30 年 3 月 4 日 (日)

- 月曜休館
(ただし祝日の場合は開館)
- 年末年始休館
(12月28日～1月4日)

開館時間：午前 9 時～午後 5 時

観覧料：無料

会 場：豊田市郷土資料館
第 1 展示室・第 2 展示室

■ 唐箕の実演

「まわせ とうみ! とびだせ もみがら!!」

日 時：平成 29 年 12 月 23 日 (土・祝)

- ①午前 10 時～
- ②午後 1 時 30 分～

参加費：無料

申込み：不要



■ ギャラリートーク

日 時：平成 30 年 1 月 27 日 (土)

平成 30 年 2 月 17 日 (土)

※両日とも午後 1 時 30 分～

参加費：無料

申込み：不要



■ 豊田市郷土資料館利用案内 ■

開館時間 午前 9 時～午後 5 時
休館日 毎週月曜日 (祝祭日は開館)
入館料 無料 (特別展開催中は有料)
交通案内 名鉄「梅坪駅」より南へ 徒歩 10 分
名鉄「豊田市駅」より北へ 徒歩 15 分
愛知環状線「新豊田駅」より 徒歩 15 分
とよたおいでんバス「陣中町一丁目」より西へ 徒歩 5 分
駐車場 約 20 台

● 豊田市郷土資料館だより No.100

平成 29 年 12 月 12 日発行

編集・発行 豊田市郷土資料館

〒471-0079 豊田市陣中町 1-21

TEL 0565-32-6561 FAX 0565-34-0095

E-mail ● rekihaku@city.toyota.aichi.jp

URL ● <http://www.toyota-rekihaku.com>

FB ● <http://facebook.com/toyotarekihaku>

※豊田市郷土資料館だよりは、HP でもご覧いただけます。